

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100434		
法人名	社会福祉法人 友愛会		
事業所名	グループホーム阿東園		
所在地	山口県山口市阿東地福下286番地1		
自己評価作成日	平成28年9月17日	評価結果市町受理日	平成29年5月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた住み慣れた地域で、職員と利用者が協力し合い、ゆっくりと安心して過ごせるよう支援しています。利用者一人ひとりの思いをくみ取りながら、職員と一緒に、家事(調理・洗濯物)、野菜作り、花植え等、出来る事を一緒に楽しみながら行い、感謝の気持ちを伝えていきます。地域の祭りや行事に参加する他、毎月、先生を招き生け花を楽しんでいます。又、年1回「家族会」を開催し、職員との意見交換や家族間の交流を図り、楽しい一日を過ごしています。道の駅「長門峡」で開催されるもみじ祭りでは、利用者と家族、職員、ボランティアの方々で協力して作った作品を、展示販売させて頂き、地域の人との交流をより一層深めていけるよう努めています。「ゆっくり・楽しく・和やかに」一人ひとりが明るく笑顔に満ち、安心安全な生活が送れるよう、そして利用者と職員が家族のように、和気藹藹と穏やかな気持ちで生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、職員や家族の気づきや意見、提案を聞く機会を多くつくられ、それらを運営に反映しておられます。職員は、自己チェックシートやストレスチェックシートを活用されて自らを振り返られ、利用者がその人らしく暮らせる支援ができるよう、日々のケアの質の向上に努めておられます。毎月、家族に利用者の暮らしの状況を職員の自筆で知らせておられ、家族との信頼関係を深めておられます。家族からの「若い頃から馴れ親しんだことは楽しみながらできるのではないか」という提案を受けて、活躍できる場面づくりや楽しみごとに、茶摘みや畑仕事、椎茸の駒うち等を取り入れられ、利用者が日々の暮らしの中に喜びや張り合いを感じられるように支援しておられます。自然豊かな立地条件を活かされて、本人が今までの生活で身に付けられたことを日々の暮らしの随所に活かされて、利用者本位の支援に取り組んでおられ、利用者も職員も笑顔で活き活きと過しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・楽しく・和やかに、住み慣れた地域で安心安全な生活が出来るように支援します」という理念に基づき実践している。職員は、折りにふれ意識している。ご家族には家族会や毎月送付の「利用者の生活状況」の中で伝えている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は月1回の職員会議で理念について確認して共有し、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや行事に利用者と共に参加している。足王様のお祭りには、全員が3便に分け参拝し、神社では顔見知りの地域の方々の協力で急な石段を上ることもできた。お茶の接待も受け、会話も弾んだ。長門峡もみじ祭りのバザーへは利用者、家族、職員、職員の家族、ボランティアの方々の協力で作った作品を販売し、地域の人と交流している。	利用者は、八幡様の秋祭りや長門峡もみじ祭りのバザー販売(雑巾、カズラのリース、卵の殻を利用した匂い玉)に参加している他、地域の他施設(あんずの会)での食事会で交流を楽しんでいる。地域の人々の協力を得て、利用者全員が地元の足玉神社に家族と一緒に出かけている。法人の夏祭りには家族や地域の方がたくさん参加している他、ボランティア(椎茸の駒打、お茶の木植え、フォークダンス)で来訪の人やクリスマスに来訪する保育園児と交流している。散歩時や買物時に地域の人と挨拶を交わし、季節の野菜や果物、菓子の差し入れがあるなど、日常的に交流している。中学生の職場体験や高校生の介護実習を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内での実践を踏まえて、地域行事等に参加し地域に向け発信している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が職員に評価の意義について説明し、外部評価の結果を踏まえ、自己評価表を前もって全職員に配布し、管理者がまとめている。	管理者は、職員に評価の意義を説明し、自己評価をするための書類を職員全員に配布して記入してもらい、まとめている。職員は自己評価を日々のケアの振り返りと捉えている。外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、評価の意義と項目を理解するための内部研修の取組みや災害対策についての取組みなど具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、地域より4名(民生委員、老人クラブ会長、婦人会長、市職員)、市又は地域包括職員(1名)、家族代表(2名)、利用者(2名)の方に出席して頂き、行事、活動報告、行事予定・利用者の状況報告・待機者状況・ヒヤリハットを報告をし、意見交換している。そして、要望、改善点をサービスの向上に活かしている。	会議は2カ月に1回開催し、利用者の状況報告や行事、活動報告、ヒヤリハット報告をした後に事故防止や災害対策等についての話し合いをしている。参加者からは、地域行事の紹介や砂防ダムの状況確認の必要性、地域と一体となった防災訓練の実施等についての意見があり、そこでの意見をサービス向上に活かすこととしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市職員の方に参加して頂く他、電話やFAX、出向いて相談する(介護保険等の提出時)等、都度、助言や意見をもらい、情報交換する等、何かの折には協力してもらえる関係を築いている。	市担当者とは運営推進会議時や電話、FAX、直接出向くなどして情報交換や法律の不明点などを相談して助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時や電話、直接出向いて情報交換や事例報告を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修(年2回)において、全ての職員が身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束をしない、安心安全な暮らしの支援に取り組んでいる。気になる声掛けがあった場合は、管理者、又は、職員同士で注意し合い、毎月の職員会議で周知している。玄関は施錠せず、外出される場合は、思いに傾聴し、一緒に外に出て安心されるよう支援している。	全職員は法人研修で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者があれば一緒に出かけたり、気分転換を図るなどして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては気づいた時には管理者が指導し、職員間でも注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修(年2回)において、全ての職員が虐待防止について正しく理解しており、虐待のないケアを行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少ない全職員の理解は乏しいと思う。参考資料を掲示、又は配布し学ぶ機会を作るよう努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、家族と一緒に読み合わせを行い、都度、確認しながら、不安や疑問点についてしっかりと説明し、理解・納得を得るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明書において、苦情受付担当者・苦情受付責任者・第三者委員・公的機関を明記し、苦情受付、処理手続きを定め、契約時に家族に説明し、施設内に掲示し周知している。又、月1回、家族から意見・要望を頂けるよう文書を送付し、意見・要望は運営に反映させている。	重要事項説明書の中に相談、苦情の受付体制や第三者委員、処理手続きを明示し、契約時に利用者や家族に説明をしている。家族からは、面会時や運営推進会議時、家族会時、行事参加時、電話等で直接意見や要望を聞いている。年4回、介護相談員の来訪があり、利用者の意見や要望を聞いて事業所に伝えている。毎月、利用者を担当している職員から家族あてに利用者の暮らしの状況を知らせる文書に、意見や要望の記入欄を設けて意見が言いやすいように工夫している。苦情や要望は連絡帳に記録して職員間で共有している。家族からは、これまでの暮らしの中で本人が慣れ親しんできたことを日々の活動に取り入れてほしいとの意見があり、家族や地域の人の協力を得て、畑仕事や椎茸の駒打ち、お茶づくりに取り組むなど、それらを運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で、意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務においても意見や提案を出し合い、運営に反映している。防災無線の設置、事業所のコンセント増設、職員用手洗い場の改修を行った。	月1回の職員会議や係り業務(献立、介護用品、畑、環境整備、レクリエーション、事業所便り)の中で直接意見や提案を聞いている他、年1回あるストレスチェックシートや自己チェックシートを活用して聞いている。家庭用防災無線の設置や感染症予防のための職員用手洗い槽の拡充、安全のためのコンセントの増設などの意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の適正な給与水準、労働時間の確保に努め、やりがいを持って働けるよう労働条件や職場環境の整備に努めている。キュアリアパスを導入し基準表に基づいて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、段階に応じて参加の機会を設けている。参加後は、情報の共有、スキルアップを図っている。法人内では年2回全職員の研修とパートナー方式研修を各自1回、内部では研修の復命の他、毎月の職員会議時、担当者が司会進行と研修を開催している。その他、死後処理、痰除去(カッピング)の研修も行った。管理者は資料を掲示したり、個別に配布したりし、働きながら知識を得る機会も提供している。	外部研修は職員に情報を伝え、職員の希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命書を提出し、全職員に回覧して、資料を配布している他、内部研修の中で報告を行い全職員が共有している。法人研修は年2回、全職員が受講できるように実施(感染症や虐待、接遇マナー)している。内部研修は月1回、職員会議の中で管理者や担当職員が講師を務め、外部研修報告や言葉かけ、心肺蘇生、BPSD、排泄の介助、介護記録のコツとツボなどを実施している。新人職員は、日々のケアを実践する中で先輩職員から介護の知識や技術を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や運営推進会議を通じて、意見交換、情報交換を行い協力関係を築き、サービス向上に反映するよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階でしっかりと情報収集し、本人が困っていることや不安に思っていることの理解に努め、安心して生活できる関係を築いている。本人の思いに寄り添ったサービスが提供できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気をつくり、本人や家族が不安に思っている事や要望に耳を傾け、関係を築き、家族の意向に添った、よりよいサービスが提供できるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや家族との話し合いの中から、本人と家族が何を一番望んでいるかを見極め、他のサービスも同様に支援するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に調理、盛り付け、洗濯物干し、洗濯物畳み、掃除、畑仕事、野菜の収穫等、日々の生活の中で教えて頂くことも多く、協力し支え合いながら暮らしている。一つの大きな家で共同生活をしているという認識で接している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回生活状況を送付するほか、特に変わりごとのある時は随時、電話連絡や面談をし、共に本人の暮らしを支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ(ふる里めぐり)、他施設での食事、交流会、受診、家族の協力を得ての帰宅・外出(墓参り・ドライブ・美容院等)等の機会が多くあり、これまで大切にしてきた人や場所との関係が継続するよう支援している。地域からも面会がある。	家族の面会、親戚の人や近所の人、知人等の来訪があり、来訪時には来訪者と利用者が落ち着いて話せる場を提供している他、電話や手紙での交流も支援している。馴染みの商店での買い物や昔住んでいた家の付近にドライブで出かけている他、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や兄弟姉妹宅の訪問、買物、一時帰宅、外泊、自宅へ仏様を拝みに帰る、墓参など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、出来ないことは手伝ったり、優しい声を掛け合い支え合っている。職員は情報を共有し、利用者同士の関係性に留意しながら、共に支え合い、穏やかな生活が送れるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に努めている。これまでの関係性が継続するよう心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にし思いや意向を聞くようにしている。確認困難な場合は日々の関わりの中での利用者の言動から推察している。毎月の職員会議やカンファレンスで本人本位に検討している。	本人や家族から、趣味や習慣、得意なこと、好む話、好まない話、支援してほしいことなどを聞いて、基本情報(くらしの情報)に記録している他、日々の関わりの中で傾聴に努め、利用者の発した言葉や訴え、表情を「支援経過記録」に記録し、本人の思いや意向の把握に努め、関連がある事項は取り出し「特記事項」として記録し、思いが介護計画に活かせるようにしている。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや本人、家族からの情報収集により、これまでの暮らしの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、本人の好きな事、出来る事等を把握し、有する力が発揮できるよう、現状の把握に努めている。体調や思いに応じて、本人ペースで和やかに生活出来るよう支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認、反映し、3ヶ月に1回カンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。状態に変化のある場合には、都度見直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。日々の記録がケアプランに即して記入されるよう個別の生活記録にケアプランをセットしている。	計画作成担当者を中心に月1回、職員会議の中でケアカンファレンスを行い、本人、家族の思いや意向、主治医、訪問看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。「生活日誌」に下線を引き、介護計画に活かし、個別ケアに反映できるように工夫している。利用者を担当している職員を中心に毎月、モニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている他、本人の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録にケアプランの実践状況を記入し、職員間で情報を共有しケアプランの見直しに活かしている。職員間で情報共有する方法として、連絡帳も用いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人を支える為の、その時々添った、より質の高いサービスが展開されるよう、既存のサービスに捉われない様に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で、地域の方々と意見を交わし、地域の中で安全で豊かな生活が送れるよう努めている。馴染みの美容院等、本人の暮らしの中で必要な地域資源を把握し、活き活きとした生活が楽しめるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による毎週水曜日の往診、看護師による毎週金曜日の訪問看護の他、毎月1回精神科、皮膚科の往診、3ヶ月に1回の眼科定期受診、4ヶ月に1回の外科定期受診の他、必要に応じて、又、家族の希望があれば通院、受診の介助を行い、家族と情報を共有しながら適切な医療が受けられるように支援している。	本人、家族の納得を得て、全ての利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は週1回の訪問診療があり、週1回、訪問看護師による健康観察を実施している。健康状態や必要な処置がある場合は「健康状態連絡書」をFAXして指示を受けている。必要に応じ、他科受診の支援も行っている。受診結果は「往診受診記録」と「連絡帳」で共有し、家族には電話で報告をしている。休日、夜間、緊急時には、協力医療機関と連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日、利用者全員の体調の様子を夜勤状況表に記載しFAXしている。体調に変化がみられるときは、随時、電話やFAXで連絡をとり、かかりつけ医看護師来園時、細かな情報や気づきを伝え適切な受診を看護を受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の心身、体調面の様子を医療機関に情報提供している。入院中は、電話や面会を行い、病院関係者と情報交換し、早めに退院できるように努めている。毎週水曜日の往診時には医師、看護師に何でも相談できる関係が築かれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所でできる対応について、入所契約時に家族に説明し、理解を得よう話し合っている。利用者の状態の変化に併せて、医師から説明があり、都度、家族と入院等を含め話し合いを重ねている。運営推進会議でも報告している。	契約時に重度化や終末期における事業所でできる対応について、本人、家族に説明をして同意を得ている。実際に重度化した場合は早い段階から家族、医師、看護師と相談して方針を共有し、本人や家族の気持ちに添う支援ができるように医療機関への移設も含めて支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人内での研修はもとより、事業所内でもマニュアルを作成し、緊急時の対応に努めている。事故・ヒヤリハット記録を取り、原因・今後の対策、注意点について話し合い、事故防止に繋げている。年1回救急訓練、年3回救急自主訓練を行う他、実践力を身に付ける為に職員会議の場において心肺蘇生法、応急手当について学んでいる。	事故等が発生した場合は、ヒヤリハット、事故報告書に状況と原因、対応等を記録し、全職員に回覧し、月1回の職員会議で再度、予防策を検討してひとり一人の事故防止に努めている。マニュアルを作成し、消防署の協力を得て救急救命法やAEDの使用法についての研修を実施し、内部研修の中で応急手当や初期対応の訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、夜間想定を含む消防通報訓練を法人施設と連携し、利用者も参加して実施している。事業所は、法人の宿直者、夜勤者と連携を図り、連絡体制を築いている。地域との協力体制については、いまだ法人内で検討中である。	消防署の協力を得て、年2回、夜間の火災を想定した避難訓練、消火器の使い方、通報訓練、避難経路の確認等を法人宿直者と利用者も参加して実施している。運営推進会議で砂防ダムの状況確認や訓練の協力等について話し合いをしているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修で人格の尊重とプライバシーの確保について十分理解している。職員は月1回、自己チェックシートで自己評価し、利用者一人ひとりの、プライバシーや人格を損ねない対応に取り組んでいる。気になる対応については、都度、管理者、又は、職員同士で注意し合い、毎月の職員会議で周知している。	職員は法人研修(接遇、PPSD)で学び、利用者の人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。職員は月1回の自己チェックシートやストレスチェックで自己評価を行い、人格の尊重とプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があった場合は管理者や職員間で注意し合い、毎月の職員会議の中で確認している。個人情報取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表すことができるよう支援し、十分に意向を聞きながら、自己決定により物事が進めていけるよう働きかけている。意思が表出できるような声掛けを行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースの生活を最優先し、その日の心身の状況に配慮しながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、美容師さんに来園して頂きヘアカットしたり、家族と一緒に行きつけの美容院に行き、おしゃれを楽しんでいる。化粧品や洗面所にはヘアブラシを常備している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼の2食を事業所で手作りし夕食(水曜日を除く)は法人の配食を利用している。利用者は下ごしらえ、盛り付け等、出来る事を職員と一緒にやっている。食後は台拭き、お盆拭きを手伝っている。中庭の畑で収穫した野菜や、旬の食材を用い、彩に配慮し、食事が楽しみなものとなるように工夫している。又、家族と外出(帰宅、受診)し外食を楽しんでいる。	夕食は水曜日を除いて法人の配食を利用している。汁物と御飯は事業所で炊き、朝食と昼食は、畑で収穫した野菜や差し入れの野菜、新鮮な食材を使って事業所で調理している。利用者の状態に合わせて食べやすいように形態の工夫をして提供している。利用者は野菜の下ごしらえや味見、おにぎりやいなり寿司をつくる、盛り付け、テーブルを拭く、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にしている。職員は利用者の摂取状況を見ながら食が進むように話しかけている。利用者の好みを活かして週一回の刺身、おやつづくり(ホットケーキ、おしるこなど)、お天気の良い日には戸外での昼食やお茶を楽しみ、誕生日のケーキ、季節行事食(おせち料理、恵方巻、赤飯、ソーメン)、外食(あんずの会、家族と一緒に)など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い、1日を通して栄養・水分が確保できるよう、食事内容、形態を工夫している。ムセや飲み込みの悪い場合は、トロミをつけたゼリー状にして一人ひとりの状態に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの出来る力に応じ、歯ブラシ、口腔ケアスポンジ、口腔ケアウェットティッシュを使用し、見守りや介助で、口腔内の清潔保持に努めている。定期的に、義歯・歯ブラシ・歯磨きコップの消毒を行い不衛生にならないよう気を付けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、性格やプライドに配慮した声掛けを行い、失敗を少なくするよう、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者ひとり一人の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時に牛乳、ご飯に寒天、食事に繊維質のもの(きのこ・野菜)を多く取り入れている。又、日々の生活の中で体を動かし、自然に排便があるよう工夫に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行事日等を除き、毎日、14時から16時まで入浴できる。週に3～4日入浴ができるように支援している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴や清拭等の支援を行っている。又、安心、安全に配慮し2人対応の支援や、入浴したくない人には、声掛けのタイミングや、声掛けの方法を工夫し入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、順番や湯加減など希望に合わせて対応し、職員との会話を楽しみながら、ゆったりとした入浴になるように支援している。入浴したくない人には無理強いをしないで時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫等をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や部分清拭、シャワー浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れや足のむくみがある利用者は、昼食後暫く居室で体を休めている。夜間は安心して気持ちよく眠れるよう、日中、活動的に過ごすよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週木曜日に薬局で薬を受け取り、職員2人でお薬手帳と薬を照らし合わせ個別に薬を仕分けている。誤薬防止の為、名前、日付を利用者に声で伝え、飲み終えるまで確認している。往診、受診記録簿に記載する他、お薬手帳で、一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を理解している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や仕事としていた生け花(毎月)、料理、洗濯物干し、洗濯物畳み、野菜作り、花植えを、季節の行事と共に、昔を懐かしみ、達成感を味わっている。法人の催し物、誕生会、カラオケ、お手玉、塗り絵、歌、回想法、かるた、新聞の読み聞かせ、ラジオ体操、リハビリ体操等、日々の生活の中で活躍できる場面を提供し、気分転換や張り合い、喜びのある生活が送れるよう支援している。	モップでの掃除、布団や毛布を干して取り入れる、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物を自室に持ち帰る、畑仕事(耕す、畝づくり、水やり、草引き、収穫)、花壇の水やり、茶摘み、茶揉み、食事の準備(野菜の下ごしらえ、味見、お盆拭き、テーブル拭き、おにぎりやいなり寿司をつくる)、来客者にお茶を出す、月に1度生花を活ける、バザー出展手芸作品(雑巾、匂い玉等)をつくる、雑誌を読む、テレビ視聴、ぬり絵、折り紙、お手玉、カラオケ、漢字クイズ、タワー遊び、魚釣り、福笑い、ラジオ体操、リハビリ体操、季節行事(誕生日、祭り、クリスマス)等、利用者の喜びや張り合いとなる楽しみごと、活躍できる場面を多くつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、園外散歩や車での外出(ふる里めぐり、紫陽花めぐり、稲荷神社参拝、外食、足王神社参拝、桜花見)を行っている。家族の協力を得て、外出(墓参り、美容院、帰宅)出来るよう支援している。	周辺の散歩や畑仕事、季節の花見(梅、桜、チューリップ、紫陽花、りんごの花、紅葉)、ドライブで故郷巡り、稲荷神社や足王神社参拝、地域の祭り、長門峡もみじ祭りに出かけている他、家族の協力を得て外食や買物、墓参、一時帰宅、外泊、兄弟姉妹宅に出かけるなど、ひとり一人の希望に応じて出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり、預り金として保管している。普段、使用の希望はないが、買い物の際はお金を所持し希望があれば使えるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者もいる。手紙や贈り物が届いた際は、電話でのやり取りを支援している他、状態に応じ出来る限りの支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は気づきがあれば見直し、快適な生活が出来るよう支援している。その時期折々の写真や飾りつけ、窓からの景色等で季節を感じて頂ける、居心地の良い生活空間を醸し出している。	居間には自然光が差し込み明るく広い。大きな窓から見える外庭や周辺の紅葉した木々や柿の実などに季節を感じることができる。外庭のウッドデッキは散歩時の休憩場所となっている。室内には、テレビや机、椅子、ひとり一人がゆったりとくつろげるよう大きなソファが配置してある。台所からはご飯の炊ける匂いや調理の音が聞こえて家庭的な雰囲気がある。温度、湿度、換気に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性に配慮しながら、思い思いに過ごせるよう、テーブル、いす、ソファ等の配置を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、テレビ、衣類、日用品ぬいぐるみ、日記帳、塗り絵セット等、使い慣れたものや、馴染みの物を持ち込み、落ち着いて安心して過ごせるよう工夫している。居室には家族の写真や利用者の塗り絵、カレンダー、生け花等を飾り居心地の良い生活空間となるように工夫している。	ベッドや箆笥、椅子、文机、テレビ、テレビ台、時計、衣装箱、鏡、化粧品、雑誌、色鉛筆等文具、メモ用紙など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、自作の生け花や家族写真、カレンダーを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や状況に応じて、住環境(椅子の種類、テーブルの高さ等)を見直し、安全かつ自立した生活が送れるよう整備、工夫している。トイレ等解りづらい場所には張り紙をする工夫をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム阿東園

作成日：平成 29 年 5 月 10 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練が継続して行われていず実践力が身につけているとは言えない	全職員が実践力を身につける	消防署の協力を得て年1回救急訓練と年3回救急自主訓練を行う他、毎月の職員会議の場において、担当者を中心に職場に即した訓練を重ねる	1年
2	36	○災害対策 地域との協力体制が築かれていない	法人全体として取り組む	施設長を中心に10月末を目標に協力体制を構築する	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。